



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-18「フェーズで関わる！総合診療医のがん診療 ～あなたの患者ががんになったらできる10のこと～」

【講師】

西 明博（安房地域医療センター総合診療科）

宮地 康僚（亀田総合病院腫瘍内科）

高岡 沙知（安房地域医療センター総合診療科）

小林 哲徳（亀田総合病院腫瘍内科）

菊地 真由（安房地域医療センター総合診療科）

瀬口 京介（亀田総合病院卒後研修センター）

もし、かかりつけの患者ががんになったら、あなたはどのような対応をしますか？

何か力になりたいけれど、がん診療は専門性が高いし、どう関わったら良いかわからない、、そんな経験はありませんか？

がん診療は治療の専門性が高く、総合診療医から敬遠されがちです。しかし、今や日本人の2人に1人ががんになる時代。治療の進歩により、地域でがんと共存しながら生活や仕事を続ける患者は増え続けています。そのような患者と家族には、治療以外にも、治療の合併症・副作用、仕事やお金の悩み、家族の役割の変化など、様々な問題が生じます。

このWSでは、がん診療を「診断時」「治療中」「治療後」の3つのフェーズに分け、各フェーズで患者と家族が直面する問題について学びます。さらに、“総合診療医だからこそできる支援”について考え、明日からの診療の一助となることを目標にしています。

これからは総合診療医もがん診療に積極的に関わり、地域全体で患者と家族を支えていく時代です。一緒に新たな一歩を踏み出しましょう！